

1 清須学講座について

- 個人的には試験はあまり好きではないが、勉強はいつから始めてもよいものなので、講座を新設することで、その機会ができることは意義が大きい。[加藤(富)委員]
- 新しい目でまちを見てみるという提案であった。確かに現状を変えていくには、そうした観点が必要で、盛り上がり欠ける本市の現状を変えていく期待はある。[横井委員]
- 地域資源のポイントはどのように絞るのかは、検討が必要だが、「美」「都市」という観点は斬新に感じた。[横井委員]
- 講座の進め方としては、案①の「座学中心」でよいのではないか。ワークショップはなかなか大変だと思う。[横井委員]
- ガイドボランティアとしては、もっと早くにこうした講座をやってほしかった。[加藤(暉)委員]
- 事業の進め方としては、本市の魅力を徹底して追及し、それを全国に発信する必要がある。なぜ清須には全国から観光客が集まるのか。やはり信長である。「清須会議」という映画が上映された際は、北海道から九州まで全国から清洲城へ観光客が見えた。[加藤(暉)委員]
- 平成21年度にガイドボランティアの養成講座があり、当時は20回の講座を1年半かけて行った。今回の清須学講座はわずかな期間で6講座開催するとあるが、少なすぎないか。せめて8回に増やすなど検討してほしい。[田中委員]
- 講座の進め方については、ワークショップ形式ではないほうが良いと思う。[田中委員]
- 講座はコーディネーターさえいれば、それなりの成果物も期待でき、ワークショップ形式でもよいのではないか。やはり、現場で活用できる成果物は魅力。[奥田委員]
- 「清須が好きじゃ」とおっしゃった方の言葉が忘れられない。[山田委員]
- 自然環境の条件が、この地域の繁栄と深く関わっている。そうした意味では、清須をまるごと学ぶことが大切。しかも、清須は研究者の研究対象なのではなく、実際に住んでみえる方があっての清須であるということが大切である。[山田委員]
- 色々ご意見はあるが、始めるにあたっては、このような方法もあるかと思う。また、朝日遺跡については、これまで情報発信が限定的だったので、有効な方法だと思う。[山田委員]
- 地方創生の究極目標は、資料1のイメージ図にあるとおり「人口の自然増・社会増」ということである。その一端を担う事業であるということを確認した。[石田副会長]
- 「美」という観点については、現代の「美」もあり得る。例えば庄内川について言えば、「赤トンボ橋」や「堤防からの名古屋駅ビル群の眺望」などがある。[石田副会長]
- テキストについては、物語性も重要ではないか。例えば、清須会議や桶狭間の戦い。それから枇杷島市場の由来や日本一古い歩道橋等。また、武将という切り口もないようだが、信長、秀吉、家康、利家ゆかりの土地である。江戸時代の景勝地だった枇杷島橋を芭蕉が句に詠んでいるし、鈴木胤(あきら)という国語学者も地味ながら立派な功績を挙げた偉人である。[石田副会長]
- 人を案内する上では、人材もさることながら、モノも大切。産業課の職務範囲の話だが、最近流行の「AR技術」(拡張技術: 現実空間に添付された情報を表現する技術のこと)等もある。[石田副会長]
- マイスターによる“おもてなし”ということを考えると、接客技術についての講座があってもよい。[石田副会長]
- 住民意識が旧4町単位で残っているので、情報はひとつの市として発信するべき。[箕浦会長]

2 「マイスター」(仮称)について

- 講座受講者をマイスターとして選別することについては危惧もある。例えば、ガイドボランティアとしては、講座を受けた方で希望する方は何人でも入ってほしいが、マイスターになれなかった方はどうなるのかということが気にかかる。[田中委員]
- 各商工会において、地域学の取組みを行っているところもあり、こうした取組みは地域観光につながるとされる。実際に地域検定を行っている商工会もあり、ガイドボランティアの養成とは異なる文脈で、こうした取組みはあってよいと思う。[奥田委員]
- ガイドボランティア様の中で、かつての講習を受けていない方もおられると思うが、今回マイスターを認定する仕組みができることで、今のガイドボランティアの方々との関係性は整理する必要があると思う。また、資格試験のようになってしまって、マイスターでなければガイドができないというかたちになってしまえば問題も出てくると思われるので、検討してほしい。[山田委員]
- マイスターの役割として、学校教育での活用も視野に入れるのであれば、この会議に委員でなくとも学校教育課に参画していただくことも必要ではないか。[石田副会長]
- マイスターのステップアップについても、資料に記載があるが、やはり特典をつけるとモチベーションになるのではないか。例えば、あしがるバスの無料券等が考えられる。[石田副会長]

3 その他

- 昨年度、新川高校から1年生の生徒さんを対象に「地元を知って、地元を愛する心を育てる授業」を依頼され、ガイドボランティアで案内をした。その後の発表会のための資料も作成したところ校長先生から大変感謝をされた。今年度も10月に行う予定である。[加藤(暉)委員]
- フランスから清洲城へ来た方に、なぜ清須へ観光に来られたのか伺ったところ、「最も有名な戦国武将である織田信長の故郷だから」という答えだった。我々がナポレオンの故郷へ観光に行くような話であると思った。[加藤(暉)委員]
- 朝日遺跡の資料館は、かつて土日に閉館していた。博物館や図書館で土日に空いていない施設はない。昨年からは変わったものの、それまでの情報発信はそういう現状があった。[箕浦会長]
- 京都の祇園祭や飛騨の高山祭りのように、山車があるというのは、人々がその祭りをイメージしやすい。しかし、西枇杷島まつりは、それらの祭りに比べて積極的な情報発信をしてこなかったこともあり、地元の人たちのお祭りとして続いてきた。そのため、清須市内でも西枇杷島から離れるほど認知度が低いという認識。[箕浦会長]
- 実際の西枇杷島まつりの山車というものは、祇園祭や高山祭りにも引けをとらない。例えば、高山祭りの山車で、実際にお囃子をしているのは1輦だけで、他はテープを流している。また人形も飾ってあるだけで、西枇杷島まつりのように操っていない。祇園祭りの山鉦も、幕は大変立派だが、他の点では引けをとらないと自負している。[箕浦会長]
- 日本全国の大都市で6割程度は、信長の子分が作った街だと思っている。例えば、家康が作った江戸の街は、秀吉の京都や大阪を参考にしており、秀吉は信長の街づくりを参考にしている。ルーツをたどると信長に行き着くという認識である。[箕浦会長]